

みなとまち新潟 歴史探訪⑮

問 歴史文化課

☎025-226-2584



新潟開港の宝「旧新潟税関」を未来の遺産へ

新潟開港150周年のシンボルは何といても「旧新潟税関」です。明治2(1869)年に建てられた運上所(後に税関と改称)は、開港5港の中で唯一現存する当時の建物として国の重要文化財に、敷地は国史跡にそれぞれ指定されています。



美しい春の旧新潟税関庁舎(正面)を復元された信濃川側荷揚げ場越しに望む

税関の入口は信濃川に面しています。新潟港は浅かったので、新潟に出入りする品物は信濃川河口沖に停泊した船から小型の天渡船に積み替えられ、税関正面の荷揚げ場にやってきました。塔屋のある中央入口のアーチを通過して通関手続きを行うことで、品物は新潟の町を出入りしたのです。

建物は擬洋風建築で、青海波模様の棟瓦、白い漆喰塗りのなまこ壁、ベンガラで塗装された鎧戸(窓部分)などに斬新さが感じられます。開港地新潟の宝物であり、新潟開港150周年を象徴するこの遺産の活用を進め、次の世代に伝えていきたいものです。

「図説 新潟開港150年史」を刊行

開港以前の新潟湊の歩みと、開港から現在に至るまでの新潟港の歴史をたどります。12月1日(土)から歴史博物館みなとぴあで販売。

¥ 1,200円(税込)



新潟湊之真景
新潟市歴史博物館蔵